

ゴルフ友達（その2）

赤谷慶子

吾會員權を持つゴルフ倶楽部の月例以外に年二たび私的な競技會に加はる。昔の勤務先にOKG（舊經濟部ゴルフ）なる同好會ありて、その構成員にて交れり。吾は經濟部に在籍せる事はなく、本社五階の編輯局の一角に國際國配信部なる英文にて記事を書く部署に在籍したり。經濟關聯の記事擔當する事多く、財務省、日本銀行、外務省、經産省の各記者倶楽部の經濟部記者達と密接なる交信ありき。情報を得るも、取材申し込むにも彼らを通さずば、組織としての制度に歪み生ずるらんと上司に散々教へこまれき。當時女性記者はいと少なく、頻繁に經濟部に出入りする我、おのれの席にゐること多き部長の目に留まり、「おい、君はゴルフに興ありや」と聞かれ肯定すれば、「蓋^{なん}ぞOKGの競技會に加はらざる」と招待せられたり。その會の長老は會長を退任せる廣岡知男といふ人物にて、吾始めの勤務先社長室なれば顔見知りなり。彼には保土ヶ谷及び霞が關といふ名門のゴルフ場に幾度も同行せり。以後會員になり、今日に至れり。

コロナ禍においてこの競技會は幾度も中止の憂き目をみたり。ゴルフは廣き屋外にて興ずる競技にて、終了後の宴を催さざれば仔細なからむといふ事にて舉行するに至れり。表彰式のみ執り行はれたり。御年九十歳の元専務と同組にて、大先輩はシニアティーを使用せらるる事になり、これまで赤きレディースティーより打ちしためしもあらねど、吾もシニアティーを使用したり。飛距離は我らと大差なしといへども、流石に寄せ及びパットは技術高し。大先輩は優勝し、吾は棚ぼた準優勝なりき。何故棚ぼたか。そは二位の人物初参加にて、規則により賞を辭退すといふ事になりたれば、一打差の三位の吾準優勝となりたり。同組よりベストグロス者も出でたり。同組の幹事は途中氣温上昇して、誰ぞを救急搬送せられむ事態になりては大事とて、氣を配りつつ競技せりと、後に明かしき。確かに半

ば軽き熱中症のごとき症状かと覺えむ仕草を大先輩は見せき。吾は惑ひてスポーツドリンク買ひ求め、大先輩に差し出だしたり。その後持ち直し十八ホールを廻ることを得たれば安堵せり。ちなみに、廣岡會長も九十二歳の頃、九ホールを回りたるのみにて引退せる思ひ出ありとの由。優勝挨拶に大先輩は此の事に言及し、「皆も相當高齢になると、かかる椿事の出來ることあらんと心せられよ」と結びき。おのれを顧み、九十歳までゴルフに興ずることを得んや否やを思案せむと、大先輩に敬意を抱きぬ。

（令和三年九月二十七日受附）